



株主通信

第214期(中間期) 2021年4月1日~2021年9月30日

[証券コード:3106]

CONTENTS

株主の皆様へ	1
当社グループの事業概況	3
トピックス	5
サステナビリティ	7
財務情報	8
株式情報・会社情報	9
株主メモ	巻末

株主の皆様へ



平素は格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。
さて、当社グループの第214期第2四半期連結結果計期間（2021年4月1日から2021年9月30日まで）の概況につきまして、ご報告申し上げます。

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、第4波、第5波と感染が拡大した新型コロナウイルスの影響を大きく受けるなか、期央からのワクチン接種率上昇などにより、感染者数は減少に向かい始め、全国27都道府県に発出されていた緊急事態宣言およびまん延防止等重点措置も9月末で全て解除されましたが、景気は回復までには至りませんでした。

このような環境下にあって当社グループは、ウィズコロナが常態化した市場に向け、感染拡大防止を徹底した営業活動や新商品の開発に注力するなど、中期経営計画「Creation'21」の目標達成に努めました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は600億円（前年同期は561億円）、営業利益は30億5千万円（前年同期は5億6千万円）、経常利益は36億6千万円（前年同期は10億円）、親会社株主に

連結業績ハイライト



(注) 第214期から、収益認識会計基準等を適用した数値を記載しております。

帰属する四半期純利益は23億8千万円（前年同期は4億7千万円）となりました。

「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下、「収益認識会計基準」という。）等の適用により、当第2四半期連結累計期間の売上高は50億円減少し、営業利益、経常利益はそれぞれ8千万円増加しております。

なお、当事業年度の間配当につきましては、前事業年度と同様見送らせていただくことといたしました。

今後のわが国の経済情勢につきましては、新型コロナウイルス感染症が収束に向かうのか、新たな感染拡大を引き起こすのかは未知数であり、また、原材料価格の上昇や半導体不足の影響も懸念されるなど、景気の動向もそれらにより大きく左右されるものと思われまます。

このような環境のもと、当社グループは、新型コロナウイルスの感染状況に引き続き注意を払うとともに、ウィズコロナ・アフターコロナの時代に最適なビジネスモデルの構築を進めてまいります。

また、中期経営計画「Creation'21」の基本方針

に沿い、高付加価値・高収益ビジネスの拡大や、R&D活動の推進、新規事業創出などに引き続き注力し、「長期ビジョン2030」で目指すべき姿と定めた「イノベーションと高収益を生み出す強い企業グループ」の実現に努めてまいります。

さらに、引き続きコーポレートガバナンス体制の充実、企業倫理や法令遵守の徹底を図るとともに、気候変動などの環境問題への対応やサステナブル社会の実現に向けた取組みなどを推進し、持続的な成長および中長期的な企業価値の向上を目指してまいります。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご指導ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2021年11月

取締役社長 藤田 晴 哉

(注) 収益認識会計基準等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しております。これに伴い、当第2四半期連結累計期間における経営成績に関する説明は、前第2四半期連結累計期間と比較しての増減率を記載せずに説明しております。

経常利益

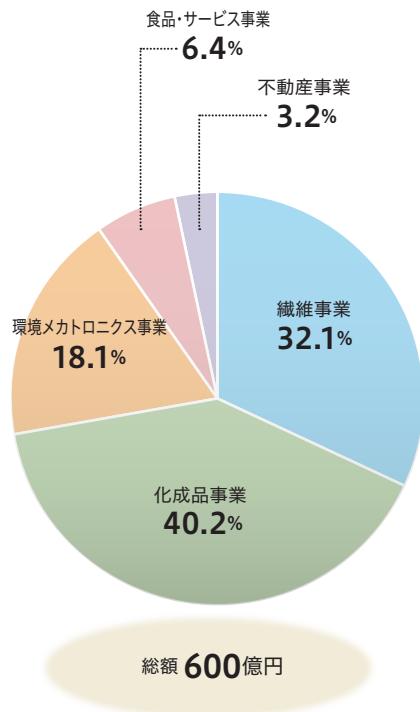


親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益



当社グループの事業概況

事業セグメント別売上高構成比率



(注) 収益認識会計基準等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しております。これに伴い、当第2四半期連結累計期間における経営成績に関する説明は、前第2四半期連結累計期間と比較しての増減率を記載せずに説明しております。



繊維事業

原糸は、インナー用原糸等の受注が回復傾向となりました。
 テキスタイルは、ユニフォームおよびカジュアル向け素材が、昨年の新型コロナウイルスの感染拡大による大幅な受注の減少から回復傾向でした。
 繊維製品は、受注が順調でしたが、一部製品の生産、販売に遅れが生じました。
 また、製造・販売の両面において引き続き収益改善策を実施しました。
 この結果、売上高は192億円(前年同期は197億円)、営業損失は4億円(前年同期は営業損失11億7千万円)となりました。
 なお、収益認識会計基準等の適用により、売上高は23億円減少しております。

繊維事業

- 綿、合繊、その他素材の繊維製品(糸、織物、編物および二次製品)の製造・販売
- 綿、合繊織編物の染色整理加工



化成事業

軟質ウレタンは、自動車メーカーにおける車載向け半導体不足の影響を受けたものの、前年度の新型コロナウイルスの感染拡大に伴う大幅減産の影響からは回復しました。
 機能樹脂製品は、好況な半導体業界の影響を受けて、半導体製造装置向け樹脂加工品が好調に推移し、また自動車向け特殊フィルムの販売が堅調でした。
 住宅用建材は、景観材などの販売が低調でした。
 不織布は、自動車用フィルターが好調でした。
 この結果、売上高は241億円(前年同期は224億円)、営業利益は12億8千万円(前年同期は1億4千万円)となりました。
 なお、収益認識会計基準等の適用により、売上高は30億円減少しております。

化成事業

- ポリウレタンフォーム、合成木材、無機建材、機能性フィルム、精密ろ過関連製品、高性能エンブラ製品、不織布および補強ネットの製造・加工・販売



環境メカトロニクス事業

エレクトロニクスは、好況な半導体業界の影響を受けて、液体成分濃度計および基板検査装置が好調でした。また、2021年2月に全株式を取得し、連結子会社となった(株)セイキの業績が好調でした。

エンジニアリングは、バイオマス関連設備が堅調に推移し、子会社でも大型プラント案件がありました。

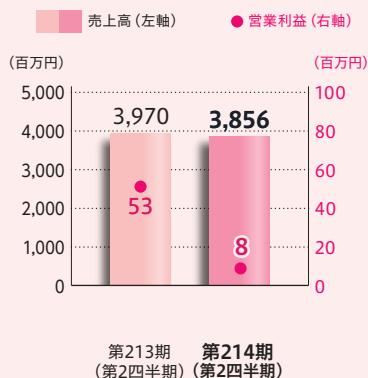
バイオメディカル関連の遺伝子受託解析サービスは堅調に推移しましたが、新型コロナウイルス抗体検査試薬キットの販売は減少しました。また、工作機械は、国内および北米向けの販売が低調でした。

この結果、売上高は108億円(前年同期は78億円)、営業利益は12億9千万円(前年同期は6億円)となりました。

なお、収益認識会計基準等の適用により、売上高は5億円増加し、営業利益は1億円増加しております。

環境メカトロニクス事業

- エレクトロニクス関連製品の製造・販売・保守
- 環境・エネルギー関連の各種プラント等の設計・製作・施工・販売、バイオマス発電事業
- バイオ関連製品の製造・販売
- 工作機械等の製造・販売



食品・サービス事業

食品は、新型コロナウイルス感染症の影響長期化に伴う、内食需要の継続により成型スープや即席めん具材の販売が堅調でした。

ホテル関連は、緊急事態宣言などの影響もあり、宿泊や宴会が引き続き低調に推移しました。

この結果、売上高は38億円(前年同期は39億円)、営業利益は8百万円(前年同期は5千万円)となりました。

なお、収益認識会計基準等の適用により、売上高は2億円減少しております。

食品・サービス事業

- フリーズドライ食品の製造・販売
- ホテル、自動車教習所等の経営ほか



不動産事業

不動産賃貸は、賃貸事業の推進に注力しましたが、一部の賃貸物件の契約期間満了により、売上高は19億円(前年同期は21億円)、営業利益は14億円(前年同期は14億4千万円)となりました。

不動産事業

- 不動産の賃貸

コーポレートサイトのご案内

>>> <https://www.kurabo.co.jp>

コーポレートサイトでは、会社案内やニュースリリースのほか、IR情報をお届けするため、「株主・投資家情報」を開設しています。

当社の開示資料を閲覧できる「IR資料室」、IR活動の日程をまとめた「IRカレンダー」など、株主の皆様のお役に立つ情報を提供しています。



繊維 事業部

“L∞PLUS”を活用した 産地間連携で繊維素材の アップサイクルを推進

繊維事業部では、循環型社会の実現と新たなビジネスモデル構築を目指し、今治タオル工業組合、奈良県靴下工業協同組合、先染織物の播州織産地の4団体（播州織産元協同組合、兵庫県繊維染色工業協同組合、播州織工業組合、播州織整理加工協会）と連携し、当社のアップサイクルシステム“L∞PLUS（ループラス）”を活用した持続可能な取組みを開始しました。

国内繊維業界では、繊維産地での持続可能な素材への取組みが進んでおらず、繊維産地の各企業から発生する端材には廃棄量削減や有効活用などの課題がありました。

そこで当社の“L∞PLUS”を基軸に、通常であれば廃棄される端材を回収し、再資源化したアップサイクル原糸を生産するとともに、例えば今治タオル産地の端材からアップサイクルした素材を奈良靴下に活用するなど、繊維産地間での連携を図ってまいります。

今後も、サステナブル

社会の実現を目指し、

地球環境に

配慮した取

組みを推進

します。



アップサイクルシステム“L∞PLUS”の概要紹介ページ

<http://www.looplus-kurabo.com/>

環境 メカトロニクス 事業部

[エンジニアリング分野] 家畜排せつ物処理装置を 開発・販売開始

環境メカトロニクス事業部は、畜産業で牛の糞尿処理に使用される敷料※を繰り返し再生できる装置“FUNTO（フント）”を開発し、本年4月より正式に販売を開始しました。日本国内で発生する家畜排せつ物は年間約8,000万t（東京ドームの約75倍）にも上りますが、糞尿を含む使用済み敷料を再生することは難しく、日々新たな敷料を購入し入れ替える必要がありました。悪臭や水質汚染などが環境問題となっていることに加え、近年では、敷料の原料となるおが屑などの木質系原料の価格高騰も畜産農家の経営を悩ませています。

“FUNTO”は当社の環境プラント分野で培った熱処理技

術を活用し、使用済み敷料を殺菌・乾燥してサラサラの敷料に繰り返し再生することができ、糞尿処理の手間や敷料購入費用を削減し、畜産農家の経営効率化や衛生管理を支援します。さらに、燃料には廃プラスチック由来のRPF燃料を採用し、資源循環型社会の実現にも貢献します。

※敷料：牛舎に敷いて牛の糞尿の吸収・処理に使用される畜産資材



家畜排せつ物処理装置FUNTO



再生前後の敷料

“FUNTO”の概要紹介ページ

<https://www.kurabo.co.jp/eng/lp/shikiryo/>

セメント系材料を用いた 建設用3Dプリンティング事業を 開始

化成品事業部は、建設用3Dプリンティング設備を寝屋川工場（大阪府寝屋川市）に導入し、セメント系材料を用いた小型から中型の立体造形物の受注生産を本年5月から開始しました。

建設業界では、デジタル技術などにより生産プロセスの変革などを目指すデジタルトランスフォーメーション（DX）への取組みが進んでいます。その中で、まだ人の労力に頼らざるを得ない建設作業現場では、建設用3Dプリンターの活用が注目されており、当社が30年以上にわたる建材の開発・生産で培った独自のセメント系材料の配合技術、押出成形技術を生かせることから、建設用3Dプリンティング事業に進出しました。建設用3Dプリンターは、3D-CADデータを基に立体物を自動で製作する成形機で、ロボットアームに取り付けたノズルからセメント系材料を吐出して積層することで、立体的な造形物を短時間で成形することができます。通常の成形方法のような型枠を使用しないため、複雑な形状や精緻なデザインも表現できるうえ、型枠の製作・管理コストの削減にもつながります。また、建設用3Dプリンターを活用した新しい建築工法などの開発にも取り組んでおり、（株）竹中工務店との間で共同研究契約を本年9月に締結しました。今後は、両社で建設用3Dプリンターに対応できる建築工法の開発および実際の建築物の製作を目指してまいります。

建設用3Dプリンティング事業の概要紹介ページ
<https://www.kurabo.co.jp/chem/lp/3d-printer/>



3Dプリンター



積層シーン



立体造形物



立体造形物

財務情報

連結貸借対照表(要旨)

(単位:百万円)

科目	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第2四半期 連結会計期間 (2021年9月30日)	科目	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第2四半期 連結会計期間 (2021年9月30日)
資産の部			負債の部		
流動資産	78,087	71,191	流動負債	47,292	39,904
固定資産	92,346	90,074	固定負債	28,136	27,100
有形固定資産	51,565	50,774	負債合計	75,428	67,005
無形固定資産	1,364	1,350	純資産の部		
投資その他の資産	39,416	37,949	株主資本	91,620	91,250
資産合計	170,433	161,265	その他の包括利益累計額	1,784	1,419
			非支配株主持分	1,599	1,590
			純資産合計	95,004	94,260
			負債純資産合計	170,433	161,265

連結損益計算書(要旨)

(単位:百万円)

科目	前第2四半期 連結累計期間 (2020年4月1日～ 2020年9月30日)	当第2四半期 連結累計期間 (2021年4月1日～ 2021年9月30日)
売上高	56,173	60,026
売上原価	46,342	47,390
売上総利益	9,830	12,636
販売費及び一般管理費	9,267	9,580
営業利益	563	3,055
営業外収益	871	872
営業外費用	426	267
経常利益	1,009	3,661
特別利益	1,059	526
特別損失	821	322
税金等調整前四半期純利益	1,247	3,865
法人税等	864	1,497
四半期純利益	383	2,367
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△91	△13
親会社株主に帰属する四半期純利益	474	2,381

連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位:百万円)

科目	前第2四半期 連結累計期間 (2020年4月1日～ 2020年9月30日)	当第2四半期 連結累計期間 (2021年4月1日～ 2021年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,874	5,676
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,443	△1,663
財務活動によるキャッシュ・フロー	△2,012	△12,606
現金及び現金同等物に係る換算差額	△195	98
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△776	△8,494
現金及び現金同等物の期首残高	18,720	22,059
現金及び現金同等物の四半期末残高	17,943	13,564

(注)「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しております。

株式情報・会社情報

当社の株式に関する事項 (2021年9月30日現在)

■発行可能株式総数	97,701千株
■発行済株式の総数	20,756千株
■株主数	14,924名
■大株主	

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	2,133	10.72
日本生命保険相互会社	920	4.62
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	802	4.03
株式会社三井住友銀行	782	3.93
株式会社みずほ銀行	782	3.93
株式会社中国銀行	726	3.65
三井住友信託銀行株式会社	412	2.07
DFA INTL SMALL CAP VALUE PORTFOLIO	406	2.04
三菱UFJ信託銀行株式会社	305	1.53
クラボウ共栄会	292	1.47

(注) ①当社は、自己株式を867千株保有しておりますが、上記大株主からは除外しております。
②持株比率は自己株式を控除して計算しております。

当社グループの概要 (2021年9月30日現在)

当社

■創立 1888年3月9日 ■本店 岡山県倉敷市本町7番1号

■主要な事業所

区分	名称	所在地	
営業所 および 研究所	大阪本社	大阪市中央区	
	東京支社	東京都中央区	
	技術研究所	大阪府寝屋川市	
工場	繊維	安城工場	愛知県安城市
		徳島工場	徳島県阿南市
	化成品	寝屋川工場	大阪府寝屋川市
		裾野工場	静岡県裾野市
		群馬工場	群馬県伊勢崎市
		鴨方工場	岡山県浅口市
		三重工場	三重県津市
熊本事業所	熊本県菊池市		

当社グループの従業員の状況

従業員数(前連結会計年度末比増減)(人) 4,237(△76)

(注) 従業員数は就業人員であり、上記のほか、臨時社員・パートタイマー986人がおります。

当社の重要な子会社の状況

区分	会社名
国内	倉敷機械(株)
	日本ジフィー食品(株)
	(株)クラボウインターナショナル
	倉敷繊維加工(株)
	東名化成(株)
	シーダム(株)
	クラボウケミカルワークス(株)
海外	(株)倉敷アイビースクエア
	クラシキド・ブラジル・テキスタイル(有)
	タイ・クラボウ(株)
	(株)クラボウ・マングアル・テキスタイル
	広州倉敷化工製品有限公司
広州倉福塑料有限公司	

(注) 上記記載の重要な子会社13社を含め、当第2四半期の連結子会社は25社、持分法適用会社は2社であります。

当社の取締役 (2021年10月1日現在)

代表取締役 取締役社長	藤田晴哉	取締役員	藤井裕詞
代表取締役 取締役・常務執行役員	北畠篤	取締役員	岡田治
代表取締役 取締役・常務執行役員	馬場紀生	社外取締役員	茂木鉄平
取締役員	川野憲志	社外取締役員	新川大祐
取締役員	本田勝英	社外取締役員	西村元秀
取締役員	稲岡進	社外取締役員	谷澤実佐子

(注) 社外取締役(監査等委員)茂木鉄平、新川大祐、西村元秀および谷澤実佐子の4氏は、いずれも当社が定める「社外取締役の独立性に関する基準」の要件を満たしており、また東京証券取引所有価証券上場規程第436条の2に定める独立役員であります。

当社の執行役員 (2021年10月1日現在)

常務執行役員	八木克真	執行役員	松井一雄
常務執行役員	西澤厚彦	執行役員	西垣伸二
常務執行役員	相徳朗人	執行役員	森重潔
常務執行役員	中川眞豪	執行役員	黒澤昭夫
執行役員	平田政弘	執行役員	丸毛浩嗣

アニマルフリー🚫な羽毛で 心まで暖めるクラボウ

寝具や防寒具などの中綿素材として、羽毛は欠かせません。しかし、天然由来の羽毛は供給量が不安定なうえ、採取する水鳥にも大きな負担が。そこでクラボウは、再生ポリエステルを原料とする独自構造の次世代羽毛「エアフレイク」を開発。改良を重ね、最高級の天然羽毛に匹敵する「FP850」という高レベルの膨らみと弾力性を達成。軽く、暖かく、動物にもやさしいエアフレイクは、天然羽毛に替わるサステナブルな素材として世界から注目されています。



繊維事業部 おがわ あきら
事業推進部 事業化推進課 小川 晃

リモート営業という制約の中で
海外顧客を驚かせた「FP850」とは…?

面白いことやってやろう。

SEASON IV Episode 1 詳しいお話はWEBで!



株主メモ

- 事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
- 定時株主総会 毎年6月
- 基準日
 - (1)定時株主総会・期末配当金 毎年3月31日
 - (2)中間配当金 毎年9月30日
- 公告の方法
電子公告の方法により行います。
公告掲載URL <https://www.kurabo.co.jp>
※事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。
- 単元株式数 100株
- 株主名簿管理人・特別口座の口座管理機関
三菱UFJ信託銀行株式会社
- 同連絡先
三菱UFJ信託銀行株式会社
大阪証券代行部
〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号
電話 0120-094-777 (通話料無料)

【ご注意】

- 株主様の住所変更、単元未満株式の買取請求・買増請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合わせください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国本支店でもお取次ぎいたします。